人に教えるときの持ち味

命宮は子にあり、太陽が入っています。仕事の役割を見る官禄宮は辰にあり、星は巨門です。この二つを重ねて、誰かに仕事を教える日のことを考えてみましょう。

相手の手が止まったところで

初めて当番に入った人に、締め作業を教える場面です。手順を一通り伝えたあと、相手が同じ欄を二度見ました。そんなとき、どこで迷ったのか尋ねて、一緒に画面を見直すことはありますか。

命宮の太陽からは、人が動けるように自分から働きかける姿を読みます。この例で光を当てたいのは、説明の上手さよりも、**困っている人に気づいて声をかける瞬間**です。

説明のあとに残る一言

官禄宮の巨門には、言葉の引っかかりを見つけて確かめる働きがあります。もし二つの記入欄の名前が似ていたら、次の当番のために「こちらは翌日分」と一言添える。相手の戸惑いを、あとに続く人にも役立つ工夫にできます。

最近、誰かに「そこで迷っていた」と言われた場面を一つ思い出してみてください。そのとき自分が尋ねた言葉に、教えるときの持ち味が表れているかもしれません。